

2024年4月入学

慶應義塾大学大学院入学試験問題

法務研究科

法律科目試験
(憲法・民法・刑法)

- 注 意
1. 指示があるまで開かないこと。
 2. この問題冊子は8頁ある。試験開始後ただちに落丁、乱丁等の有無を確認し、異常がある場合にはただちに監督者に申し出ること。
 3. 受験番号(2箇所)と氏名は、解答用紙(表)上のそれぞれ指定された箇所に必ず記入すること。
 4. 解答用紙の※を記した空欄内には何も書いてはならない。
 5. 解答は科目ごとに指定された解答用紙に書くこと。誤った解答用紙に解答した場合でも、解答用紙の交換や再交付の求めには応じない。
 6. 答案は横書きとし、解答用紙(表)の左上から、順次、実線内に一行ずつ書き進めること。
 7. 答案は、黒インクの万年筆またはボールペンで書くこと。
 8. この問題冊子の8頁は白紙である。下書きの必要があれば、この部分を利用すること。また、解答用紙を下書きに用いてはならない。
 9. 注意に従わずに書かれた答案、乱雑に書かれた答案、解答者の特定が可能な答案はこれを無効とすることがある。

刑 法

〔問 題〕

以下の問題1と2に答えなさい（ただし、特別法違反については論じないこと）。なお、解答は必ず問題番号順に記載しなさい。

問題1

以下の事例におけるXの罪責を論じなさい。

Xは、夜中にお腹がすいたので、食料を買うためにコンビニに行くことにした。Xがコンビニに入ろうとしたところ、中から「強盗だ」という叫び声が聞こえてきた。自動ドアから中に入ると、マスクをしてゴルフクラブを手にしている中年の男Aと、初老の男Bが対峙しており、Bの後ろにはコンビニの店員が倒れていた。Xは、Bがコンビニの店員を助けるために強盗の前に割って入ったものだと思う、Bに加勢するべく、Aとの間にさらに割って入って、Aと対峙して身構えた。Xは、大学の柔道部のキャプテンであり身長185cm・体重90kgの筋肉質の体格だった。一方、Aは身長170cm・体重65kgの中肉中背の体格だった。

実は、強盗はBであり、Bが店員を殴り倒したところを目撃したAが、勇気をふりしぼって、ゴルフ練習場からの帰りだったためにたまたま持っていたゴルフクラブを手にしてBと対峙しているところに、Xが割り込んできたのだった（Aは外出時にはマスクを付けるようにしていた）。目の前に巨漢のXがいきなり立ちふさがって身構えたため、ただでさえ動揺していたAは、さらに気が動転し、腰のあたりに両手で持っていたゴルフクラブを思わず強く握り締めた。Aの体に力が入ったことを感じたXは、素早くAに組み付くと、その動きを制したうえで、頭から床に思いっきり投げつけた。そのために、Aは、頭部打撲に起因する急性硬膜下血腫により死亡した。

問題 2

以下の事例における X の罪責を論じなさい。

X (30歳代の男性) は、令和元年 1 月に、勤務していた会社の上司の娘 (30歳代の女性) と婚姻したが、令和 3 年 6 月頃以降、同じ会社に派遣社員として勤務していた A (20歳代の女性) と不倫関係にあった。

X は、令和 5 年 2 月頃、A から、妻と離婚して A と婚姻することを求められるようになった。しかし、離婚の意思はなかった X は、同年 3 月某日の夜、A が一人暮らしをしていた賃貸アパートを訪れた際、別れ話をした。ところが、A は容易に納得せず、会社の上司や同僚にこれまでの関係をばらすことを示唆する発言もあったことから、X は、気が動転してにわかにな殺意を抱き、A の首を両手で数分間にわたって強く絞め続けて、A を窒息死させた。

その直後、X は、「人を殺してしまった。大変なことをしてしまった」と思う一方で、保身を考え、自分と A の関係が知られることにつながる物を持ち去ることを思いついた。そこで室内を探したところ、A のスマートフォン、及び、予定表欄に相手が X と分かるデートの予定が多数書きこまれ、X と一緒に撮影した写真プリントシールも貼付されている A のシステム手帳を発見し、これらを持ち帰って、スマートフォンはすぐに破壊し、システム手帳はバラバラにしたうえでシュレッダーにかけようと考え、自分のバッグの中に入れた。

その後、A のアパートを出て帰宅した X は、まずスマートフォンをハンマー等を用いて破壊した。次に、システム手帳を開いたところ、裏表紙のカードホルダーに A の銀行キャッシュカードが収納されていることに偶然気づいた。そこで、X は、しばらく事件捜査の手が自分に及ばないようであれば、これを用いて現金引出しを試みようと思うに至り、同カードを取り出して、自室内の物入れの奥に隠匿した。そして、システム手帳の全ての頁をシュレッダーにかけて廃棄した。